

フランス語圏アフリカ人のアイデンティティ

他地域フランス語圏に住むアフリカ系人のアイデンティティとの関連において

平成25年度入学
派遣先国: フランス
御手洗 なつ実

キーワード: アイデンティティ、クレオール、ネグリチュード、グアドループ、フランス、ルーツ、セネガル

対象とする問題の概要

フランス語圏のアフリカ、アンティル諸島、そしてフランスで生きる黒人たちが **Noir et Fier (= Black and proud)** と言うとき、この **Noir** は同じものを指しているのだろうか。1930年代に、フランスに留学していた学生、セネガル人のレオポール・セダール・サンゴールやマルティニーク人のエメ・セゼールらによるネグリチュードという文学運動が起こった。彼らは“白人になる”ことを求められる同化政策が敷かれたフランスで、黒人独自の文化や伝統を高く評価し、黒人の復権を訴えた。その後、1960年に独立を果たしたセネガル、独立運動を経験しているもののフランスの海外県になったマルティニークとグアドループ、またこれらの地域から現在も多く移民、移住者が集まるフランス、それぞれの地域で黒人たちのアイデンティティはどのようなものか、またアフリカの血を離れた人々にとってオリジンアフリカンとは何かを考察する。



研究目的

この研究では、まず各地域でアイデンティティに関するアンケート調査を行い、その結果を比較する。最終的には、フランスで生きるオリジンアフリケンが抱える問題などを取り入れながら、アフリカを離れた人々、その子孫にとっての『アフリカ』を考察することが目的である。今回のエクスポローラープログラムでは、フランス海外県グアドループでフィールドワークを行う。公用語はフランス語だが、グアドループの人々は日常的にクレオール語を話しているため、クレオール語の習得することを主な目的としている。現地滞在中は、アイデンティティに関するアンケート調査、大学にて文献調査も行う。

フィールドワークから得られた知見について

グアドループで話されるクレオール語は、クレオールフランセと呼ばれ、フランス語に似ている。グアドループ人は皆フランス語を話す、クレオール語を好んで使う人と、クレオール語を完全に理解しながらクレオール語を

使うことを拒否する人がいる。言語が作る人間関係もあり、人々のアイデンティティにも関連している。アンケート調査は、様々な年代の男性25人、女性25人、計50人のグアドループ人を対象に行った。彼らは黒人または、混血の人々である。アンケート内容は、主に言語、フランスとフランス人(ここでは白人の意)、アフリカ人、ルーツとアイデンティティについてである。アンケート調査で一番特徴的な結果が現れたのは、アフリカ人に対する質問項目だった。今後、セネガルでも同じアンケート調査をするが、調査結果を比較するために十分な結果を得られた。

2013年8月からグアドループでフィールドワークを開始したため、フランスのバカンスの時期と重なっており、観光地にはフランスから多くの旅行客が訪れていた。特にフランスに移住したグアドループ人や、フランスで生まれ、フランスで育ったグアドループ人と話をすることができ、グアドループで暮らすグアドループ人とのアイデンティティの違いを知るいい機会となった。

今後の展開・反省点

今回と同じ内容のアンケート調査をセネガルで実施し、グアドループの調査結果と比較する。その後、フランスでアンティル系移民やアフリカ系移民の調査に入る。反省点としては、アンケート回答者の学歴に偏りが見られることである。グアドループでは、学業のためにフランス本土へ渡る若者が多いため、今回の調査では、中卒と中学中退、高卒と高校中退だけで約半数に及んだ。また、現地の人々の歴史への関心のなさからか、全くと言っていいほど確かな情報がなく、目的の1つでもあった奴隷の像を探すのに約1か月もかかってしまった。

帰国する際にパリ郊外の“移民”の多い町に滞在した。アフリカ人はアンティル人が嫌い、アンティル人はアフリカ人が嫌いという話をたまに耳にする。実際にグアドループで行ったアンケート調査でそういった回答も見られた。しかし実際には、彼らは同じ地区に集まって暮らしていることが多い。アンティル人が「チェブ(アフリカのご飯)食べたい!」と言っていたりする。今回はあまり時間がなく、数人に話を聞く程度のことしかできなかったが、興味深い話を聞くことができた。